

# 「北ガス厚沢部太陽光発電所」 の建設について

2022年11月11日  
北海道ガス株式会社

# 1. 厚沢部太陽光発電所の建設に至った経緯

## ■ 厚沢部町と北海道ガスとの包括協定（2022年6月締結）

厚沢部町と北ガスの相互連携のもと、地域に賦存する水力、太陽光などの**エネルギー地産地消**を促進し、厚沢部町が直面する課題に対応することで基幹産業の一つである農業振興を軸に町の活性化を進め、次代へつなぐ活力のある**産業のまちづくり、安全、安心・快適なまちづくり**に寄与することを目的として締結。

## ■ 具体的な連携項目

- （1）農業用ダムである鶉ダムを活用した小水力発電の開発、活用に関すること
- （2）町の遊休地などを活用した太陽光発電の開発、活用に関すること
- （3）地産の再生可能エネルギー電源による電力の地産地消を実現する地域新電力会社の設立、運営に関すること
- （4）地域に賦存する未利用エネルギーの活用による地域産業の振興に関すること



**（2）の具体的な取り組みとして  
「北ガス厚沢部太陽光発電所」を建設**

## 2. 厚沢部太陽光発電所の概要

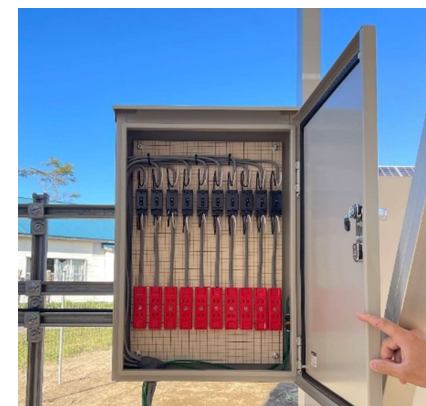
整備された遊休地を活用し、最小限の環境負荷で発電所を建設



▲厚沢部太陽光発電所（左：第1発電所、右：第2発電所）

名称	厚沢部太陽光第1・第2発電所
建設地	第1発電所：上里ふれあい交流センター隣接町有地 (檜山郡厚沢部町字上里92-1) 第2発電所：旧滝野小学校グラウンド内 (檜山郡厚沢部町字滝野502-1)
発電容量	第1発電所：49.5kW 第2発電所：49.5kW
想定発電量	年間約184MWh (92MWh×2基) (一般家庭約60世帯分に相当)
運転開始日	2022年11月11日

▼停電時に利用できる  
非常用コンセントボックス  
を設置



※太陽光の発電中のみ利用可能

## 2050年以降のカーボンニュートラルを展望しつつ、2030年を中間点と位置づけた経営計画「Challenge2030」の達成に向けて、北ガスグループの総力を結集して挑戦していく

Challenge

1

省エネを基盤としてあらゆる手段、可能性を探りながら、脱炭素社会への備えを進めていきます

Challenge

3

地域資源の活用に北ガスグループの総力をあげて取り組み、全道への展開と新たな事業の可能性を追求していきます

Challenge

5

次代を担う人材として実践的で高度な専門家集団等、北ガスグループ全体での人材育成を推進していきます

Challenge

2

情報プラットフォームの構築により省エネの定量化と価値化を図り、量の拡大に依存しない価値創造型の事業基盤を構築していきます

Challenge

4

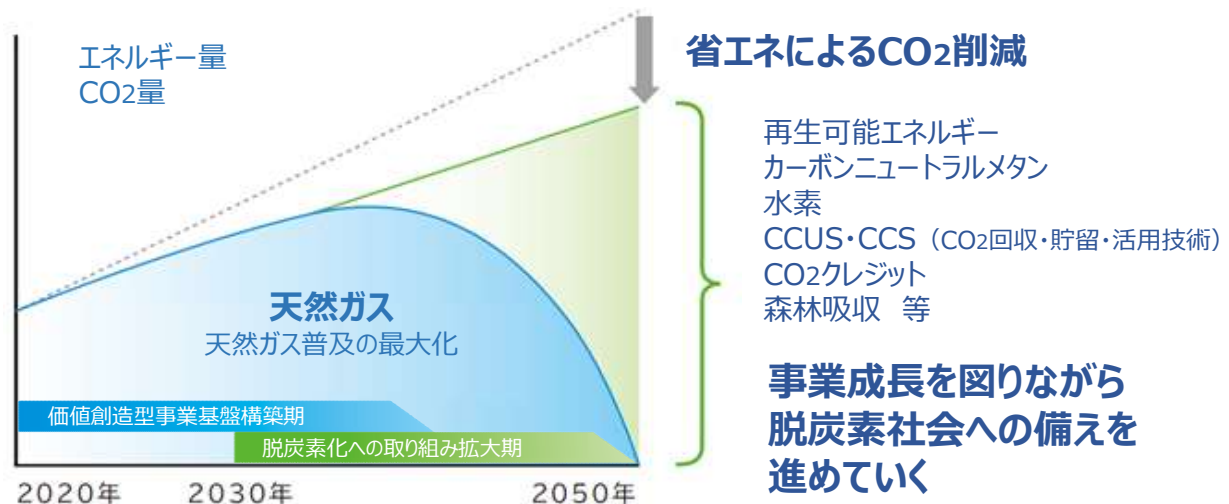
非効率・不合理なものを排除し、DXを最大限活用、機能させ、業務改革を遂行していきます  
※北ガスグループ内全業務のペーパーレス化を達成  
(2023年12月末まで)

Challenge

6

社会の急激な変化や災害等に迅速・柔軟に対応できるよう、DXの活用により意思決定の迅速化を図っていきます

総合エネルギーサービス事業の推進による機能的で効果的な省エネと2030年以降の早期にCO<sub>2</sub>ピークアウトを目指しあらゆる手段、可能性を探り、備えを進めていく





## 1 総合エネルギーサービス事業の進化による分散型社会の形成

- ・天然ガス普及の最大化と徹底的な省エネの訴求
- ・「ガスマイホーム発電+エネルギーマネジメントシステム (EMS)」の標準化
- ・都心部再開発における分散型EMSの導入促進
- ・デジタル活用によるお客さまサービスの強化



ガスマイホーム発電「コレモ」



札幌市北4東6周辺地区における地域エネルギーマネジメントシステム

## 2 カーボンニュートラルへの挑戦

- ・省エネの定量化と価値化
- ・カーボンニュートラルエネルギーの提供
- ・低・脱炭素に資する次世代技術への挑戦
- ・再エネ電源開発と地域の低・脱炭素化



稚内風力発電所



上士幌町におけるエネルギー地産地消型エネルギーモデル

## 3 デジタル技術の活用による事業構造変革

- ・業務プロセスの見直しと事業コストの徹底的な削減
- ・環境変化を踏まえた地域に適した事業インフラの構築
- ・高度な専門性を有する人材・組織への変革



EMINEL



ガススマートメーター

## 次世代プラットフォームを活用した事業構造変革

- ・あらゆる情報を高度に連携、需要と供給を最適化
- ・業務プロセスを抜本的に変革し、高付加価値型の強固な事業基盤を構築



# (参考) 2030年までの再エネ電源拡大の道筋

## これまでの取り組み

- 地域のエネルギー資源を活用した電源の確保
  - ・ソーラーファーム石狩
  - ・苫小牧バイオマス発電所
- セカンダリ発電設備の取得
  - ・栗山太陽光発電所
  - ・稚内風力発電所
  - ・芦別太陽光発電所



苫小牧バイオマス発電所  
(2017年)



栗山太陽光発電所  
(2020年)

## 今後の取り組み

- 北ガス石狩発電所の調整力を活かした再エネ出力変動モデルの普及
- 遊休地を活用した太陽光発電の整備
- 地域連携先の拡大 (6→30か所) と地域資源のさらなる活用 等

